渋川郷学５人の師匠　相関図

吉田 芝渓　よしだしけい　1750-1811

寛延3年(1750)中之町生まれ ※通説では宝暦2年(1752)生まれとも
文化8年(1811)没。享年62歳

著書「養蚕須知」「開荒須知」で「農業を大切に」「養蚕は科学的にやることが大切」「荒れ地の開墾は農村振興に一番よい」と教え、渋川地方の養蚕・製糸業繁栄のもとをつくった。

【私塾】天明７年に中之町に塾を開き、寛政５年に芝中へ開拓のため移住し引き続き塾を開く
【教科目】儒学、国学、漢詩文、珠算、四書、五経、農業関係

兄弟

吉田 翠屏　よしだ すいへい　1760-1805

宝暦10年(1760)中之町生まれ
文化2年(1805)没。享年46歳

芝渓の弟。芝渓とともに山崎石燕、平山旭山に学び、芝渓とともに門弟を教える。

漢詩文などを教える

周休竹渓　しゅうきゅうちくけい　1775-1854

安永4年(1775)持柏木村(赤城町持柏木)生まれ
嘉永7年(1854)没。享年80歳

僧の傍ら漢詩人としても名をはせた上毛漢詩界の巨人。漢詩集「竹渓詩稿」「竹渓小稿」「小隠集」等を発刊。
幼少から多病であったため医学をよく研究し、自身も80歳まで生きるとともに、近隣の窮する病人には無料で診察し、投薬したという。

【学び】持柏木村の西善寺住職の周弁に仏道や漢詩を、芝渓･翠屏兄弟に主に漢詩文、江戸に出て東叡山学寮で仏道や経史、佐々木琴台(ささききんだい)に漢詩を学ぶ
【私塾】遍照寺住職となり、足翁、蘭斎、藍園らに漢詩を教える

儒学などを教える

漢詩、仏教学を教える

漢詩を教える

木暮足翁　こぐれそくおう(たりおう)　1789-1862

寛政元年(1789)南横町(南町)生まれ
文久2年(1862)没。享年74歳

紀州の医師華岡青洲(はなおかせいしゅう)に弟子入りし修行。その後、江戸の高野長英(たかのちょうえい)のもとでオランダ医学を学ぶ。帰郷し、医者として開業するとともに塾を開き、門弟を教育した。

【学び】芝渓に儒学など、周休に漢詩と仏教学、江戸で屋代弘賢(やしろひろかた)に国学と和歌、高野長英に蘭学、華岡青洲に外科医学、本居大平(もとおりおおひら)に国学と和歌を学ぶ
【私塾】文化９年頃に南横町で塾を開いたが、その後自分の勉学などのために塾は断続した。塾では入学･修業年限は一定していなかった。門弟は100人程度で、そのなかに蘭斎、藍園、狩野利房らがいた。
【教科目】国学、和歌、漢学

和漢の学問、蘭学の初歩を教える

国学と和歌を教える

高橋蘭斎　たかはしらんさい　1799-1882

寛政11年(1799)裏宿生まれ
明治15年(1882)没。享年84歳

江戸で宇田川榕菴(うだがわようあん)に弟子入り。先進的な医学を学んで帰郷した蘭斎は、足翁と同じく医業の傍ら塾を開いた。

【学び】足翁に和漢の学問や蘭学の初歩、周休から漢詩、巡遊してきた大寂庵立綱から和歌、江戸へ出て宇田川榕菴から洋学を学ぶ
【私塾】天保のころ裏宿で家塾を開く。入学･修業年限は一定せず、門弟は100人くらいといわれている。そのなかに藍園がいた。
【教科目】漢学、国学、和歌、書

漢学など初歩の学問を教える

堀口藍園　ほりぐちらんえん　1818-1891

文政元年(1818)裏宿生まれ
明治24年(1891)没。享年74歳

「渋川郷学」を大成した藍園は、家業の紺屋の傍ら塾を開いた。藍園塾は町村長や議員などになった人材を多く輩出し、新時代建設に活躍した。

【学び】周休に漢詩、足翁に国学と和歌、蘭斎に漢字など初歩の学問を学ぶ
【私塾】嘉永５年に裏宿で家塾を開く。入学･修業年限は一定していないが、６～８歳で入学する者が多かった。明治５年の学制発布で家塾を廃止したが、明治９年に出された県の「学務概制」により「私塾開業願」を明治10年３月に出し、藍園学舎を再開する。塾則を掲げ、15歳以上の者の入学を許可し、授業料は12銭から30銭までとした。
【教科目･教科書】大学、中庸、論語、詩書、小学等の素読を授け、上等の者へは皇漢史類、輿地史略から西洋翻訳書まで及んだ